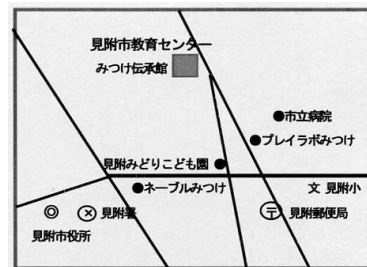


# 見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和7年1月17日 NO.10

「MITSUKERU(ミツケル)」

## 私の居場所

～感謝の気持ちを大切に～

見附市中学校校長会 会長 今井 渉



私は今年、還暦を迎えます。私の卒業した高校では、還暦の年に長岡まつり大花火大会で尺玉 60 連発を打ち上げることになっています。

1月2日に、この還暦花火打ち上げの成功を祈念する新年会が開催され、結構迷いましたが、思い切って出席してきました。「話が弾むのだろうか？」という不安をもっての参加でしたが、まあまあそれなりに楽しく過ごせました。60歳を目前にしての「今さん」とか「わたるくん」という呼ばれ方はとても新鮮でしたし、仕事の話も教育関係以外の話が多いので、興味深かったです。

普段の生活を「現実」、上記のような出来事を「非現実」と呼ぶ時があります。今年のように長い年末年始の休み明けは、「また明日から現実が始まる」のように思った方もいるのではないのでしょうか。「非現実」は楽しく、自分を元気づけたり癒したりするのですが、いつまでもそこにとどまることはできません。私たちの目の前にあるのは日常であり、現実の世界です。大切なのは、現実である「今」をどう充実させていくかということです。

現実を充実させていくために大切なことは、「現実を当たり前だと思わないこと」だと、今年の年末年始の休みに改めて感じました。

私が新年会への参加をどうして迷ったのか、それは一言で言えば「私の居場所があるか」という不安からです。「私が話しかけられる人はいるだろうか、話しかけてくれる人はいるだろうか」という不安です。でも普段の生活である「現実」の中で、このような不安を感じることはありません。言い換えれば、現実の中には私の居場所があるので、その居場所は、私がつくったものではなく、私の周りの方たちからつくっていただいているものです。そう考えると、「また明日から現実が始まる」の「現実」のありがたさを感じられ、「様々な人から支えられて居場所をいただいている『現実』。一日一日を丁寧に重ね、頑張っていかななくては!」という気持ちになります。

令和7年が始まりました。「現実」を支えてくれている方々への「感謝の気持ち」を大切に、一日一日がより充実していくことを願っています。

## 巻頭写真に寄せて 『MITSUKERU』…温もりを感じます

◇巻頭写真は、昨年5月末にオープンした見附駅前交流拠点「MITSUKERU」です。駅隣接の駐輪場を改修して、2階部分を誰でも使えるフリースペースにしたものです。この施設は、全面大きな窓ガラスで明るく、西側に面してカウンター席があり、駅構内や柳橋町方面が眺望できます。中にはテーブル席やソファも設置されています。市は、「若者や地域住民が気軽に集まり、出会いやアイデアが生まれる場になることを期待している。」と、開設時の記事にありました。記事を見て、「素晴らしい施設が出来たなあ。」と思いながら、車通勤で見附駅に行く機会が少なく、これまでは、ここに入ったことがありませんでした。

◇昨年末の夜に、見附駅を利用しました。暗く寒い冬の夜、昨冬なら寒々とした駐輪場だったはずですが、私が目にしたのは全面のガラス窓から漏れてくる灯りのシャワーです。この灯りに何とも言えない温もりを感じ、ここで勉強したら能率が上がるだろうし、友人との語らいは楽しい時間になるだろうと思えました。また、この灯りは、防犯対策にも大変有効だろうと思えました。

◇現在、見附市の冬の風物詩『街路樹イルミネーション』が開設中(11月24日～2月14日)です。これは、街路樹が青色の電球で彩られた市役所通りで行なわれていると、思われていませんか。駅前広場も紫色の電球で樹木が飾り付けられ、これも美しいです。 駅前イルミネーション

◇年末に見た「MITSUKERU」の灯りを、ここで紹介をしたくて10日(金)の夕方、出かけました。暗くなりかけた中、橙色の電球に温かみを感じながらスロープを上り、中に入ると、学生がテーブル席で、数名ずつ飲み物を飲み談笑していました。カウンター席の学生は、勉強したりパソコンを打ったりしていました。また、端の席で成人男性も居ました。中央には綺麗なトイレも設置されており素晴らしい施設です。駅利用等の待ち時間で覗くのも良いですが、午後9時まで開いています。皆さんもぜひ、紫色のイルミネーションと「MITSUKERU」の灯りの温もりを感じに今、駅前に行ってみませんか。

## コラム … 歴史ドラマや映画は、史実どおりではない …



◇昨秋ある会合で、新発田市在住の旧友と話をした。その折、彼が「新発田藩は裏切り者でなかったんだ。」と喜びの表情で言った。一瞬何を言っているか分からなかったが、次第に理解できた。『十一人の賊軍』の映画を見ての感想を話してくれたのだった。

◇この映画は、戊辰戦争時に、新政府軍と対立する旧幕府軍の奥羽越列藩同盟に、渋々加入していた新発田藩の新政府軍への寝返りという史実をもとに、「11人の罪人が藩の命令により、砦を守る壮絶な戦いに身を投じる姿を描いたフィクション映画」である。

◇さて、同じく中立の立場で戦いを避けたかった長岡藩も、最終的に列藩同盟に加わり、大きな戦禍を受けた。江戸から明治への流れの中で、止められなかった戦いだったのだろうが、戦禍を受けた地域から新発田藩は色々と言われたと思う。また、話をした彼も「罪人たちが新発田城下を守った」と、本気で思っていない。新発田藩が舞台であり、誰もが自分の正義のために動くという内容が「新発田藩は裏切り者」の汚名を、彼の心の中で払拭できた喜びであろう。大河ドラマ等で歴史を見る時、史実と脚本家の描いたものを、自分で再構成して捉えると、違った見方ができるのではないかと考える。(こ)





## 4時から夢塾

## 『夢をもって、楽しむ！』

第14回「4時から夢塾」(校長メッセージ)を、12月6日(金)に、見附第二小学校の下村芳明校長先生から、表題の演題で37年間の教員生活で取り組まれてきたことを教えていただいた。



下村 芳明 先生

1 教育は楽しい…若い頃の夢は「教員になり、子どもたちを鍛えたい。」  
校長として今…「楽しい学校・美しい学校・鍛え合う学校」を作りたい。

### 2 見附第二小学校の取組み

- (1) 第二小だからできる…全校臨海、全校スキー、杉沢探検、鮭の稚魚放流
- (2) 第二小の取組み…週1コマ時数カット、教科担任制、異学年合同体育
- (3) 校長として…企画する喜び、子どもの変容を見ることができる喜び



### 3 美術(図工)教育に関わって

- (1) 新採用校の校長の言葉…図工には「心を決める喜びがある。」
- (2) 中越美術教育研究会、県美術連盟…中美展審査会、ジュニア展審査会
- (3) よい絵画とは…明るい のびのび 個性的 内容がある 驚き 誠実 楽しい



### 4 出会った上司、先輩の励ましの言葉

- 「どの学校に勤務したかではなく、どんな同僚がいたかだ。」
- 「大変な時はゲームだと思え。命までは取られない。」

### 5 感性と技術(崩壊を担任が気付かない。立て直しをする力がいる。)

- 崩壊する学級あり。⇒感性と技術が必要。心も体も屈強な人になること。

### 6 学級立て直しの方策(経験で得たもの)

- 成長したいかを問い、仕切り直し。・普通に頑張っている人を大切に。崩壊しないが一番。

### 7 研究主任、教務主任、教頭で感じたこと

- 研究主任は理論を試すことができる。
- 教務主任は全ての事案に関われる。教頭は全ての事案に巻き込まれる。起案は夢を語る。

### 8 最後に <教育は楽しい>

- 最後にどこにいるかが大事。(先輩の言葉) ⇒夢をもって、楽しんでほしい。



<参加者の声> ・若い頃から強い向上心をもって取り組んでこられたことが良く分かった。

- ・温かな人柄が伝わるお話を通して、教育のもつ素晴らしさを再認識することができた。
- ・飾られない語りの中に、教職員としての熱意、こだわり…を感じて、よい気持ちになった。
- ・何事に対しても、常に前向きな姿勢での取組みを見習わなければならないと強く思った。
- ・子どもの成長を願い、精進されてきたことがよく伝わった。私も人の縁を大切にしたい。
- ・一番心に残ったことは感性と技術で、昔も今も教師にとって、大切な資質だと私も思う。
- ・もう一度若い教員からやり直したいと思った。私の心に火をつけて下さった先生に感謝です。



## 4時から夢塾 『 どう伝える？ どう伝わる？ 』

第15回「4時から夢塾」(校長メッセージ)を12月18日(水)に、葛巻小学校の白井敦校長先生から、表題の演題でお話を伺った。

1 はじめに 大学で心理学を学ぶ…教員をする上で役立つの？

⇒教科指導はあまり役立たない。生徒指導・保護者対応で少し役立つ。

- ・心理学とは行動・表情・仕草・反応等から、相手の心の状態を探ること。
- ・生徒指導等では、丁寧で細やかな対応が必要。こちらの意図が伝わらないことが…。相手の二次感情(怒り等)を受け止めるには…。

2 どう伝えるか？ どう伝わるか？

(1) 伝える手段…言語と非言語

①言語…文字(文字で書く)、言葉(口頭で話す)

②非言語…動作活動(身振り手振り・表情・目の動き)、接触行動(挨拶・握手等)、パラ言語(音声の強弱・高低・リズム)、身体特徴(体つき等)、環境要因(照明・温度)

(2) コミュニケーションの三要素…言語・声のトーン(聴覚)・身体言語(視覚)

(3) 非言語のよさ…①聴き手の興味関心を高められる。②聞き手に安心感を与えられる。③信頼関係を築きやすい。

(4) 非言語のまとめ…コミュニケーションの三要素(言語・聴覚・視覚)が大切。聞き手は非言語の情報を無意識に受け取っている。

(5) 言葉で伝える…「言葉を選んで、伝えたいことを伝える」

・最近の風潮⇒言葉を言葉通りに受け取る。

(6) 言葉の選び方…可能な限りポジティブな言葉を選ぶ。

・リフレーミング…物事の見方を変えて、感じ方を変える方法。

(7) リフレーミングの効果…①モチベーションが上がる。②人間関係が円滑になる。③課題解決が容易になる。

・具体的には、見方を変え感じ方を変えること。もう～しかない。⇒まだ～ある。

・短所を長所に表現を変えてみよう…作業が遅い⇒丁寧にやる。うるさい⇒活発・元気がいい。

(8) リフレーミングで気を付けたい2つの注意点

①肝心な部分が解決しないままのことがある。②素直な感情を封印し苦しくなることがある。

(9) ネガティブ感情を前向きな言葉に置き換える⇒自分の気持ち、相手の受け止めが穏やかに。

(10) まとめ 自分に合った伝え方を見つけることが大切である。

**<参加者の声>** ・子どもへの対応等、相手目線になって受け止められていることを実感した。

・分かり易い話、話しぶりが、まさに、どう伝える？ どう伝わる？を表していたように思った。

・伝え方の難しさに対する方策を、心理学の視点から解説していただいて参考になった。

・なぜ保護者対応で困るのかを教えていただき、心を広く対応をすることができたらと思った。

・言語・声・身体がピタリ合っていることが、伝える伝わることの要素だと知ることができた。

・リフレーミングを知ることができて、前向きな表現をこれから心がけていきたいと思った。

・お話を聞いて、受け止め方を考えた言語の選択をすることが大事だと改めて考えさせられた。



白井 敦 先生





1月



# 科学教育部



《今月の1枚》

「塞の神」行事 葛巻地区

## 【今年の干支は『巳』?】

「今年の干支は何?」と聞かれたら、なんと答えますか。正しくは「乙巳(きのとみ)」です。「干支」は「十干十二支(じっかんじゅうにし)」を省略したものです。干支で連想する「子、丑、寅……」で始まる12の動物は十二支です。干支はこの十二支と、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10の要素からなる十干を組み合わせた60通りの数詞です。

甲子、甲丑、甲寅と順番に10種類の十干と12種類の十二支を組み合わせていくと120通りになるはずですが、干支は60パターンしかありません。それは、甲子、乙丑、丙寅と十干と干支からそれぞれ順番に取って組み合わせるルールがあるからです。甲子から始まる60パターンある干支を一巡すると、61番目にはまた甲子に戻ってきます。暦が元にかえることから、これを「還暦(かんれき)」といい、満60歳を迎えた人の長寿を祝いするのです。

## 【干支はいつから使われていたのか?】

干支がいつ作られたのかは定かではありませんが、紀元前16世紀ごろの中国にあった殷時代の遺跡から、甲骨文字で書かれた干支の表が見つまっているそうです。殷時代には10日を1つの旬、6旬で1周期とする暦を作り、60日それぞれに干支を当てはめていたことが分かっています。その後、戦国時代になると、干支は日付としてだけではなく、時間や月、年、方角を表す数詞としても使われるようになります。ただ、まだこの頃は子、丑、寅という文字だけでした。そこに動物が当てはめられたのは、中国の王朝・秦の時代。文字を読めない人でも、時間や日にちが分かるように、身近な動物が選ばれたと言われています。

【参考】<https://lasisa.net/post/86266> (最終閲覧 2025.1.10)

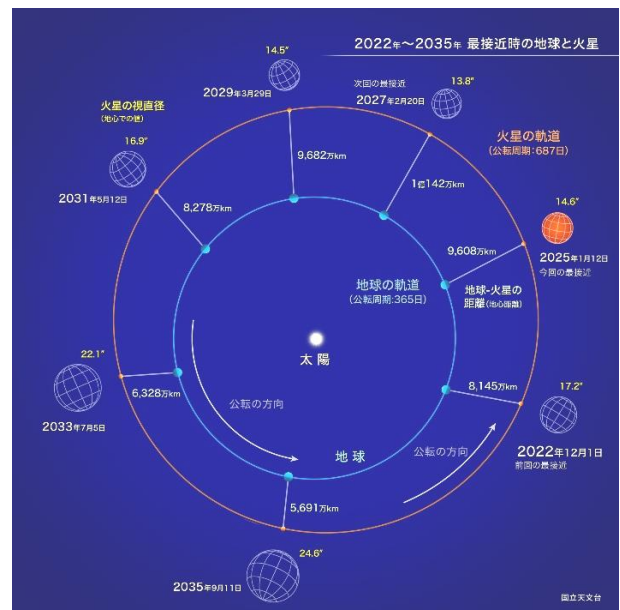
## 【土星の環が消える?】

1月12日、地球に火星が最接近しました。夜空で赤っぽく輝く火星は、地球の一つ外側を公転している惑星です。火星は約2年2カ月ごとに観察の好機を迎えます。残念ながら、見附市では曇天のため観測はできませんでした。

これからの星空は、昨年と比べ、にぎやかになりそうです。その一つを紹介します。

3月24日、15年ぶりに土星の環が消える「土星の環の消失」現象が起こります。土星の環はとても薄いため、地球から見て土星を真横から見る位置になると、まるで環が消えてしまったかのように見えます。また、5月7日と11月25日にも、土星の環が消失する機会があります。教育センター科学教育部でも、土星の環をとらえたいと考えています。

【参考】国立天文台ホームページ (最終閲覧 2025.1.16)



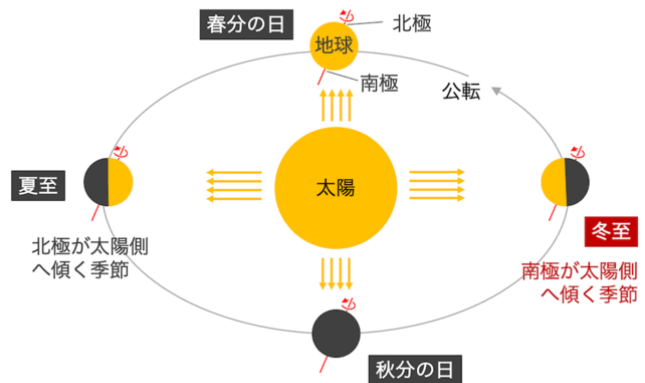
# 科学の公園

## なぜ、冬至が一番寒い日ではないのか？

見附市立新潟小学校 野村 恭一

今年 2025 年 1 月 20 日は、二十四節気の一つ「大寒（だいかん）」です。二十四節気は太陽の動きをもとに定められた暦で、その日付は毎年、国立天文台が決めています。大寒は、一年の中でも寒さが厳しくなる時期とされています。大寒から立春までの約 15 日間を指すこともあり、2025 年は 1 月 20 日から 2 月 2 日の 15 日間です。

さて、大寒の約 1 か月前には「冬至（とうじ）」（2024 年は 12 月 22 日）があります。冬至は、昼の時間が一年で最も短くなる日です。昼、つまり太陽の出ている時間が短くなるわけですから、一年で最も寒い日となりそうですが、実際にはそうではありません。冬至を過ぎれば少しずつ日が長くなっていきますが、それでも暖かくなることはなく、引き続きどんどん寒くなるのです。一年で最も寒くなる時期は、冬至から約 1 か月後の「大寒」、その周辺の日となります。



冬至と公転の関係

昼の時間が最も短い冬至ですが、なぜ一年で一番寒い日ではないのでしょうか？

それは、地球の大気や海水、陸地の温まり方が関係しています。日照時間が短くなっても、海水や地面が冷えるまでには時間がかかります。さらに、空気までもすっかり冷え切るのには、1 か月程度かかるためです。

\*冬至；昼の時間が最も短い日

\*地球の大気、海水、陸地は温まりにくく冷めにくい。

\*だから、冬至から約 1 か月後の大寒のころが一年で最も寒い。

・・・ということは、反対に夏の時期で考えるとどうなるでしょうか？最も暑い時期が予想できるはずですよ。

[参考] [https://www.yamanashibank.co.jp/fuji\\_note/life/post\\_3720.html](https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/life/post_3720.html)

冬至とは？～なぜ冬至が一番日の出が遅くないの？地域の習わしも

当センター科学教育部兼任所員の新潟小学校：野村恭一先生からご寄稿いただきました。